

編集後記

「ABCD仮説くん」をお読みいただきありがとうございます。「ABCD仮説くん」では、支援方法ではなく、「支援方法を考える過程の重要性」を強調いたしました。本書では学齢期を例として挙げておりますが、お示した「支援方法を考える過程」は、青年期や成人期の支援にも応用が利くものだと考えております。支援の現場において、仮説を立て、実践した結果、「ピタッとハマった」「通じ合った」とき、何ともいえない気持ちがこみあげてきます。本書をお読みの皆様にも、是非、そのような体験を味わっていただければ幸いです。「ABCD仮説くん」が、そのような形で、皆様のお役に立てましたら、これ以上の喜びはありません。末尾になりましたが、今回ご協力いただきました関係者の皆様には心より感謝申し上げます。



沖縄県発達障がい者
支援センター
がじゅま〜る

〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根5丁目2番17号
沖縄中部療育医療センター内に併設
E-mail : gajyumaru@shoni.or.jp
TEL : (098)982-2113
FAX : (098)982-2114

制作協力: 沖縄県教育委員会
NPO法人わくわくの会 mars(まあす)
MORITA DESIGN Nyaai

仮説を立てて実践してみよう!

か せつ ABCD仮説くん



発達が気になる子どもたちへの対応について、仮説を立てて実践していく考え方の案内役です。

◀ 発達探偵
「仮説くん」

沖縄県発達障がい者 支援センター がじゅま〜る



はじめに

本パンフレットは、沖縄県発達障がい者支援センター がじゅま〜と沖縄県教育委員会で共同制作し、日々の指導に役立てていただくために作成しました。「なぜ、この子は漢字を覚えられないんだろう?」「なぜ、他の子と比べて注意散漫で落ち着きがないんだろう?」「どうして、お友達とうまく遊べないんだろう?」そんな声を相談で受けることがあります。1990年代から「LD(学習障害)」「ADHD(注意欠陥多動性障害)」「ASD(自閉症スペクトラム障害)」などを総称した「発達障害」が注目されるようになりました。この「発達障害」は、保護者の育て方やしつけ、年齢や生活などが原因ではありません。早期に発見し、周囲の大人が適切に対応をすることで、多くの子ども達が大人になって共に地域で生活することが可能になります。「発達障害」のある子ども達は、勉強でいろいろなことを知りたい、友だちとも仲良くしたいと思っても、うまく伝えられずに歯がゆい思いをしているかもしれません。そんな子ども達をどのように理解し、どのような具体的な支援があれば、子ども達の笑顔につながるのか考えていく必要があります。あなたが今、手にしているこのパンフレットは、イラストを中心に、やさしい言葉で具体的な指導事例を紹介しています。子ども達にかかわる全ての大人の皆さんが発達障害を理解し、適切な配慮をするための手がかりとして、活用していただければ幸いです。(沖縄県教育委員会)



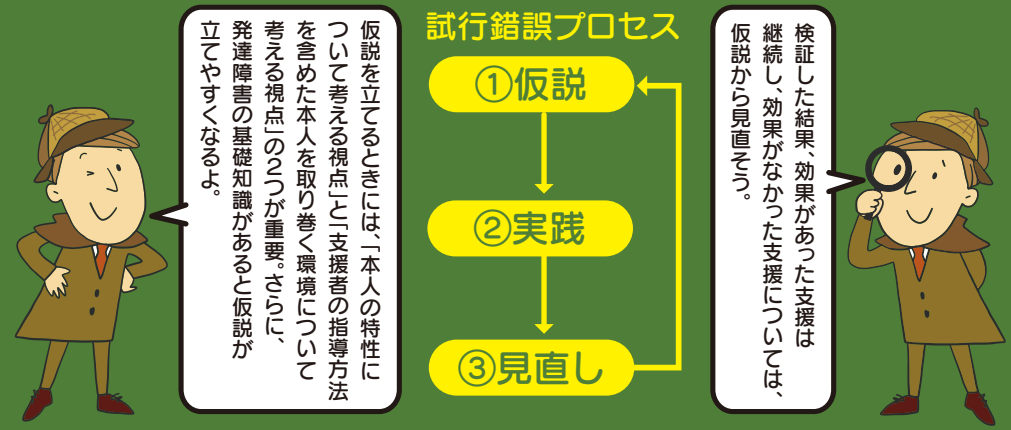
性格の問題じゃないよ
脳機能の特徴の違いなんだよ

コラム 1 発達障害とは?

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。これらのタイプのうちどれにあたるのか、障害の種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。障害ごとの特徴がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのです。(発達障害情報・支援センターHPより)

冊子の活用方法

平成24年の文部科学省の調査によると、発達障害の特性をもつ子どもたち(以下、「気になる子」と表記)は、6.5%います。気になる子は「診断」ではなく「支援」が先に必要です。現場では、即効性のある支援方法が求められがちですが、気になる子のもつ特性は十人十色のため、How to本をめくってみても、ぴったりの支援方法になかなか出会えません。気になる子へは、オーダーメイドの支援が必要だからです。すなわち、効果のある支援を導き出すためには試行錯誤が欠かせないのです。そのプロセスは次の3点。



この【仮説→実践→見直し】といった試行錯誤のプロセスを続けていくことが重要です。この試行錯誤の繰り返しの中で、らせん階段を登るように「気になる子」の理解がすすみます。さらに、より効果的な支援が提供できる支援力も身につくといえます。次のページから、この試行錯誤のプロセスの具体例を紹介したいと思います。

らせん階段的支援のイメージ図

この図のような試行錯誤の支援プロセスを積み上げることで、「気になる子」の理解が積み上がり、効果的な支援方法が提案できるようになっていきます。



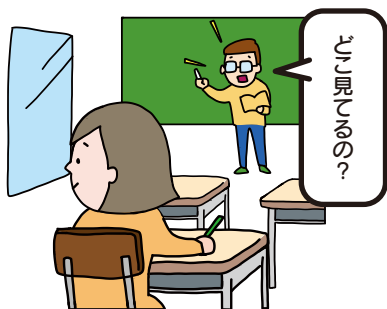
01. じっとしてられない子 → 悪気はないかも

授業中や静かにしないとイケないときに集中できない子がいます。性格やしつけを

疑う前に、なぜそのような行動をとるのか推理してみましょう。

【仮説 A】

周りの様子が気になる



隣の生徒の動きや黒板横の掲示物が気になっているかも。

【実践 A】



掲示物を減らしたり、席順を工夫してみよう。

【仮説 B】

身体のどこかを無意識に動かしてしまう



身体を動かさないと、集中したり、気持ちを落ち着けられないかも。

【実践 B】



プリントを配ってもらうなど身体を動かしてもいい時間を作る。周りに迷惑をかけていない場合には注意しない。

【仮説 C】

今すべきことがわからない



言葉での指示だけでは、すべきことが理解できないかも。

【実践 C】



文字や絵で指示したり、この今すべきことの見通しを持たせてみよう。

【仮説 D】

興味を優先させている他



コラム 2

聞く力を育てる声かけ



発達が気になる子どもたちは、マイナスの行動が目立つため、否定的な注目・言葉を浴びやすくなります。否定的な声かけは、怒りや不安のスイッチをオンにし、暴言や離席などの行動につながります。困っているのは子どもです。まずは、じっくりと子どもの行動を観察し、なぜじっとできないのか、子どもの視点に立って考え、どうしたらいいのかを肯定的に伝えてみて下さい。肯定的な声かけは、子どもたちの聞く力を育てることにつながるはずです。(NPO法人わくわくの会)

02. 学習の遅れが気になる子 → 特別な工夫があると実力が発揮できるかも

いくら教えても身につかない子や、教科によって得意・不得意が極端に違いすぎて、

まじめにやっていないように見える子がいます。もしかしたら学習の工夫が必要な子かも。

【仮説 A】

読み書きが苦手かも



見え方が独特で、似た字を区別したり、文章を区切るのが苦手かも。

【実践 A】

リーディングトラッカー使用例



マス目の入ったノートやリーディングトラッカーを活用してみよう。

【仮説 B】

環境に左右されているかも



窓や蛍光灯の光がまぶしかったり、がやがやした教室の雑音に反応しているかも。

【実践 B】



サングラスやイヤーマフを活用してみよう。

【仮説 C】

「わからない」が積み重なっている



問題を間違えたり、注意される経験が多くなりすぎて、勉強に苦手意識があるかも。

【実践 C】



「わからない」と表現できる方法を考える。「できた」という体験の積み重ねを大事に。

- 【仮説D】聴力はどうか？
- 【仮説E】生活リズムは？
- 【仮説F】家で話されている言語(保護者の国籍)は？
- 【仮説G】...



コラム 3

見落とされやすい気になる子



発達が気になる子のなかには知的障害を伴わない、あるいは知能の高いタイプがいます。そのため周囲からの期待が高まり、その期待に応えきれないと努力不足と誤解されて、自信をなくしてしまう場合があります。また、まわりとの違いに違和感をもちながらも、必死に合わせようと努力する「過剰適応」になってしまう子も少なくありません。過剰適応は、ゆくゆくは適応障害につながり、問題が大きくなることがありますので、見落とさないように気をつけましょう。

03. 宿題をやってこない子 → 怠けではないかも

なんども宿題を忘れてしまう子があります。もしかしたらその子は、なまけ心はないのに

つい忘れてしまっているのかもしれません。

【仮説 A】

計画を立てるのが
苦手かも



逆算して考えるのが苦手で、気がつくと夜になっているかも。

【実践 A】



家庭と協力し、家に帰ってからやるべきことのリストを作ってみる。本人と一緒にリストを作ることや「シールを貼る」など、できたときにちょっとしたご褒美を用意することがコツ。

【仮説 B】

大事なところを
聞き逃がす



丁寧で長い説明に、かえってどこが大事な箇所かわからなくなっているかも。

【実践 B】



短い言葉で、端的に伝える。大事な箇所に目印をつける。

【仮説 C】

難易度がミスマッチ



宿題の難易度が本人に合っていないかも。

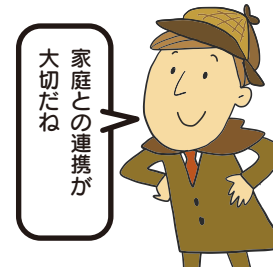
【実践 C】



家庭と連携し、少し頑張ればやれそうな内容・量にしてみよう。

【仮説 D】

お手伝いに追われている
子もいるかも 他



コラム 4

保護者との連携について

気になる子が家庭でみせる姿と学校でみせる姿は違うことが多く、保護者と教師で問題意識が異なることがあります。保護者との連携においては、まず、保護者のお話を聞くことから始めましょう。その際、「共感的に聴くこと」「保護者を労うこと」が大切です。家庭で実践している配慮なども伺えると、学校での支援のヒントになるかもしれません。保護者から学ぶ姿勢を大事にしたいものです。学校での様子を伝える際は、「子どもの得意なところを伝えること」「苦手な部分について共有する際は、学校で実施している配慮も併せて伝えること」の2点を大事にしてください。学校で実践している配慮を伝えることで、家庭での関わり方のヒントを得られます。保護者と教師が、お互いの想いや実践を共有することで、子どもの理解が積み上がり、子どもが実力を発揮できる環境が整ってきます。

04. クラスでの居心地 が悪そう

通訳者がいると心強いかも

クラスの友だちとのやりとりが苦手だったり、ふんいきを読めずにトラブルになる子

がいます。独特の不器用がある場合は、コミュニケーションの工夫が必要です。

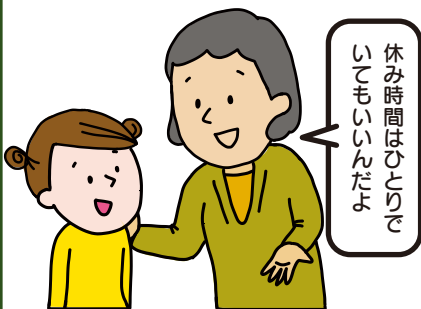
【仮説 A】

みんなと仲良くしようとして
頑張りすぎている



クラス全員と仲良くしようとして気を使いすぎて疲れているかも。

【実践 A】



1人である時間も保証してあげよう。

【仮説 B】

興味や関心が違う



興味のあることが同年代の子と違うかも。

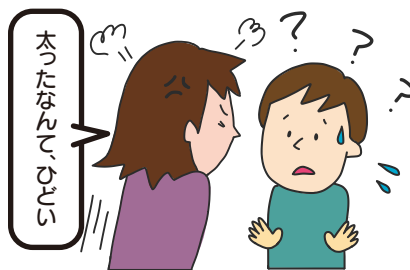
【実践 B】



年齢や常識にとらわれず、まずはその子の興味あるものに、大人が関心を向けてみよう。

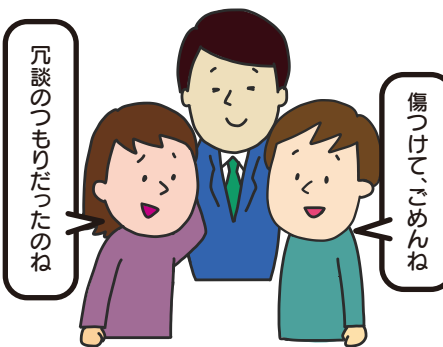
【仮説 C】

言葉の裏を
読み取れない



本音と建前や、冗談と本気の区別がつかない。

【実践 C】



大人がおたがいの気持ちの通訳者になってみよう。

【仮説 D】

一方的に話してしまっているかも 他



コラム 5

発達段階を理解した学級経営



小学校低学年の学級経営を行う上での礎は、担任と児童との信頼関係を構築することです。低学年の児童は、担任の先生が大好きです。そして先生の一举一動に注目しています。「〇さん、よくできたね」「〇さん、この姿勢すばらしい」等、名前を呼び、認め、望ましい行動をしている子供が褒められることが、多い学級では、自分もあんな風に褒めてほしいという思いが育ち、望ましい行動形成に繋がります。(沖縄県教育委員会)

05. 見えてきた本人理解を新サ 次へつなごう

ポートノートえいぶるで

「新サポートノートえいぶる」は、発達が気になる子の発達歴や支援記録などを一冊にまとめることができます。相談や支援のさいに活用することで説明の負担を軽くし、関係者にも十分に理解してもらえるためのツールです。また当事者支援の仮説・実践・見直しを実践するツールとしても使えます。

市町村の窓口
(障害福祉、母子保健、
子育て支援、教育委
員会)で受け取れ
ます

県のサイトから
ダウンロード
できます

テンプレート
いろいろで、
記入見本もあり



沖縄県 障害福祉課 えいぶる



(シート5) こんな支援の助かります！シート

☆こんな支援が助かります！

「こんな時、こうしたら上手くいくかも」という支援の方法を書き定めてみましょう！

困ったり不快に感じる場面・とりやすい行動

考えられる理由

こんな支援が助かります！

困ったり不快に感じる場面・とりやすい行動

考えられる理由
集中すると音があまり聞こえ
入らず、視界が狭くなります

こんな支援が助かります！

(記入日： 年 月 日)

※例：(相談員)「一人ひとりの発達をつくる生活支援プラン」Mapより (文章の書体を変更してあります)

記入は
手書きでもOK

短く端的に
書いてもらうと
わかりやすい

☆こんな支援が助かります！

「こんな時、こうしたら上手くいくかも」という支援の方法を書き定めてみましょう！

困ったり不快に感じる場面・とりやすい行動

急な予定変更

考えられる理由

口頭指示だけでは忘れてしまう。
急な予定変更は驚いてしまう。

こんな支援が助かります！

課題などは事前予告をお願いします。
口頭だけではなく文書や絵、図、写真資料があると伝わり
やすいので助かります。

このシートで
仮説↓実践↓見直し
を整理しよう



記入例

ここに
仮説が入るよ

ここに
実践を入れよう

コラム 6

えいぶる活用で成績アップ

A君は高校入学時で小学校三年生レベルの学力でした。さまざまな工夫で高校卒業時には標準レベルの学力を身につけることができ、大学にも合格することができました。でも両親は学内ルールや提出物の期限が守れるのか、とても不安でした。そこでかねてからお世話になっている福祉事業所に相談し「えいぶる」での合理的配慮の申請の仕方を教わり、大学に申請。A君の高校の担任が推薦書に合理的配慮の要請文を入れてくれました。すると入学式の日から大学の教師たちと職員らでチームを作って、A君を支援。そのおかげでA君は好成績で無事卒業。希望する職種に就職することができました。(沖縄県在住の当事者家族)



情報の差が支援の差です

上のシートはA君が申請したときの記入例です。他にも支援メモを書いて提出しました。

メモの内容の一部

- ①レポート、宿題等、重要な連絡事項を書面化し、メールで保護者と共有してください。
- ②レポート作成や提出物等の声かけと提出前切前に再確認の連絡をください。
- ③スケジュール確認と行事や講義の準備など優先順位決め、補習・補講案内はメール通知してください。
- ④具体的な指示がないと動けない場合があるので数字などで明快到順番などの指示をください。などなど…。

情報提供が正確なほど、よりしっかりと
とした支援が可能になります



あしがき

子供のやる気は、 関わる人が育てる。

最後まで読んでいただきありがとうございます。「やってみよう」と思われた方へお願いします。取り組むその前に、関わるお子さんの顔を思い浮かべ、良いところを探してください。些細なことでもかまいません。具体的には「よく怒るけどやさしい」「時間はかかるが字を丁寧に書く」等です。人は得意な所や良い所を認め、褒められると、やってみようという気持ちになります。その上で、仮説をたてて実際にお子さんと互いに気持ちを伝え合いながら、やりとりを続けていくことが大切です。子供が「できない」や「やらない」には、理由があります。「理解する」ことから始まる支援、支援する側の振り返りも忘れずに。できるところから始めてみてください。(沖縄県教育委員会)

ぼくたちの意志
を尊重して!

「どうして」を
一緒に考えて
欲しいな

まずは話を聞いてみよう
目線の合わせかたや
声のトーンも気を配って

本人が決めることを
助けていきましょう

相談できる代表的な 支援事業所情報

特別支援教育 に関すること

●各市町村教育委員会

※お住まいの市町村のホームページでご確認ください

●沖縄県教育庁県立学校教育課(代表)

〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟13階(南側) TEL:098-866-2715

●沖縄県立総合教育センター 特別支援教育班

〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号

TEL:(098)933-7555 FAX:(098)933-3233



発達障害に 関すること

●各市町村障害福祉主管課

※お住まいの市町村のホームページでご確認ください

●沖縄県発達障害者地域支援マネジメント強化事業(受託事業者)

特定非営利活動法人わくわくの会 さぼーとせんたーi

〒903-0112 沖縄県那覇市三原2-6-1 2階

TEL:098-987-1167



●沖縄県発達障がい者支援センター

※詳細は裏表紙あるいはホームページでご確認ください



もっと 学びたい方へ

●発達障害情報・支援センター

※詳細はホームページでご確認ください



●発達障害教育推進センター

※詳細はホームページでご確認ください

